

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立沼間中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

全国・県と比較して $\pm 5\%$ の差が見られる内容について中心に分析し、自校の指導計画や授業づくりに活用してください。

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○言葉の意味を選択する問題では、県平均や全国平均よりもやや高い正答率であった。

●一方で、漢字を書く問題は県平均・全国平均を下回る結果であった。

漢字を書く機会を設定し、漢字を使う場面を意識して増やしていく。

《情報の扱い方に関する事項》

○選択式、短答式ともに、県平均や全国平均より高い正答率であった。また、無回答率も0であった。

《我が国の言語文化に関する事項》

○記述式・短答式ともに、県平均・全国平均よりも高い正答率であった。

《話すこと・聞くこと》

○目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる問題では、県平均や全国平均よりも高い正答率であった。

●話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる問題では、県平均や全国平均を下回る結果であった。また記述の問題も県平均や全国平均をやや下回る結果であった。記述問題については、無回答の割合も多い。

話すこと・聞くことを意識的に行うよう授業で取り入れていくとともに、実際に行う場面を設定していく。

《書くこと》

○根拠を明確にして書く記述式の問題は、県平均や全国平均よりも高い正答率であった。

●文章を整える選択式の問題は、全国平均並みの正答率であった。

条件を読み取り、記述をする問題をこれからも授業や試験で取り上げていく。

《読むこと》

○選択式・記述式ともに県平均や全国平均よりもやや高い正答率であった。選択式は無回答率も0であった。

《生徒質問紙 国語に関する質問》

○行書の書き方や効果的な話し方、根拠を明確書く、描写をもとに捉える等、できていると捉えている生徒が県平均や全国平均よりも高い回答であった。自分の力を肯定的に捉えることができている。

●国語の勉強が大切や授業の内容の分かりやすさは、県平均や全国平均よりも低い回答であった。

国語の勉強の必要性や在り方について考える機会を今後授業で設定していく。

【 数学 】

《数と計算》

- 文字式についての基本的な問題では、5ポイント近く全国平均よりも高い正答率であった。
- 一方で、問6の(3)のような記述式の問題では、全国平均を5ポイント下回る結果であった。
式の意味を読み取り、事柄が成り立つ理由を自分の言葉で説明する力を付けさせていきたい。

《図形》

- 図形の性質を考察する場面において、2直線が平行であるとき同位角や錯角が等しいことを数学的に表現し、説明することについては、全国平均より10ポイント上回る高い正答率であった。

《関数》

- 具体的な場面で数量の関係をとらえ、1次関数の関係にあるものの意味をとらえることについては、すべての問題で全国平均とほぼ変わらなかった。

《データの活用》

- 四分位範囲、箱ひげ図については、全国平均を上回っていた。言葉を理解し、正しく計算しないと求めることができないが、ある程度定着が見えた。
- 一方で、累積度数についての基本的な問題であったが、全国平均より5ポイント近く低かった。用語が理解できていないことが課題であった。しっかりと言葉の意味を定着させたい。

《生徒質問紙 算数に関する質問》

- 数学の勉強は好きかという質問に対し、1. の当てはまるが最も多く45.2ポイントであった。しかし、数学の勉強は大切かという問いに対しては、2. のどちらかと言えば当てはまるが42.5と最も多かった。数学の授業はよくわかりますかという問いに対しては、1. 当てはまるが42.5ポイントと最も高かったので、今後も維持していけるよう工夫して授業を行っていきたい。
- 課題は、数学の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役立つかという質問に対し、最も多かったのが、3. どちらかと言えば、当てはまらないであった。社会に出たときにどう役立つかということを授業の中で感じられるようにすることが課題である。

【 英語 】

《聞くこと》

- 県平均や全国平均よりも高い正答率であった。また、無回答率も0であった。
- 買い物の場面における会話の問題では、似た選択肢から正答を導くのに必要な情報を正確に聞き取ること
に課題を感じている様子である。

《読むこと》

- メールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する問題では、全国平均より20ポイント上回る高い正答率であった。
- 事実や考えが書かれた英文を読む問題では、県内平均より4ポイント近く低かった。今までに解いたことがない問題形式であったことが大きな要因と考えられる。また、表現の判断も課題と感じられる結果であった。物語と意見文など多種多様な文章に触れる機会を設けることで慣らしていきたい。

《書くこと》

- 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題では、県平均や全国平均よりもやや高い正答率であった。
- メールの英文を依頼する表現に書き換える問題では、県内平均よりもやや低い正答率であった。英文を見れば、依頼している文章というのは理解できるが、日本語から英文を導きだすことができなかったと考える。似た意味を持つ、様々な文章に触れさせて慣らしていきたい。
無回答率がほかの項目よりも高くなっている。思考を巡らせて、文章を考えることをそもそもできないと諦めてしまっているので、意見文やメールなどの文章を書くことも授業に取り入れて慣らしていきたい。

《話すこと》＊結果・分析のHP上への公表については、改めて連絡します。

- 全国平均に比べ、10ポイント近く高い正答率だった。しゃべる内容はまとまっていなくても何かを伝えようという姿勢が表れている。
- 無回答が読むことや聞くことに比べて高くなっている。そもそもの回答の仕方が分からなかったことに加えて、パソコン操作がうまくできなかったことが要因の一つと考えられる。実施の仕方を見直すとともに、パソコン操作に慣らすために時間の確保ができればある程度改善できると考えられる。

《生徒質問紙 英語に関する質問》

- 英語の学習に意欲を感じていたり、学ぶ意義を感じていたりする生徒が多い。
- 英語の授業の内容が分かると8割の生徒が答えていることから生徒たちの意欲の高さを感じている。今後この意欲をなくさず、さらに高めていけるように授業を展開していきたい。
- 意欲が高く、学ぶ意欲を感じているが授業以外で英語に触れたり学習したりすることができていない様子。学ぶ仕方を知らない可能性が高いので、交流の機会や学びかたを授業を通じて伝えていき改善していきたい。

◎生徒質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

- 自分には、よいところがあると思うかという問いに対しては、1. 当てはまるが最も多く53.4ポイントで全国平均の37.2よりかなり高かった。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うかの問いに対しては、1. 当てはまるが52.1ポイントで全国平均の40.0よりこちらも高かった。

○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるかという問いに対しては、1. よくあるが 50.7 ポイントで全国平均の 40.9 を 10 ポイント上回った。

○学校の授業以外で普段（平日）読書をどれくらいするかという問いに対して全国平均が 5.4 のところ 12.3 と高かった。学校の図書館がとてもよい空間であることが理由として考えられる。

●先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれるについては、2. どちらかといえば、当てはまるが 49.3 で全国平均 45.2 は上回るが課題として意識していきたい。

●家で自分で計画を立てて勉強はしているかという問いに対しては、全国平均の 15.3 を下回る 13.7 であった。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

調査の結果から、おおむね生徒の自己肯定感が高いようである。これからも、いろいろな活動の中で、仲間の意見と自分の意見を比べたり、自分と違う意見の良さに気が付いたりする機会を意識してつくり、互いにより高めていけるような集団づくりをしていきたい。